

2021年度つくば国際大学高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>1 自分を生かし、「社会の役に立つ人材」を育成する学校</p> <p>2 厳しい時代を生き抜くための「生きる力」を身に付けられる学校</p> <p>3 地域に根差し、地域に信頼され愛される学校</p>
重点項目	重点目標
1 キャリア教育の充実	社会的・職業的自立に向け、生徒一人ひとりの夢を育み、将来の自分を考えさせ、必要な基盤となる能力や態度の育成に努める。また、併設大学・短大との連携を強化する。
2 確かな学力の向上	わかる喜びと自信をもたせ、よりよく問題を解決する力を養うため、基礎学力や思考力・判断力など確かな学力の向上を図る。
3 人間関係作りの推進	温かい人間関係を築くことができるよう、コミュニケーション能力の向上や居場所作りに努める。
4 特別活動の活性化	望ましい集団活動を通して個性の伸長及び自主的・実践的態度の育成のため、部活動や学校行事等の活性化を図る。
5 基本的生活習慣の確立	他者と協働できるよう、規範意識や自己管理能力を育むため、学校のルールを守り、社会のマナーを身に付けさせる。
6 国際教育の推進	グローバル化が急速に進展する中、外国の人々の多様な価値観を認め共生できるよう、異文化理解の活動を推進する。
7 情報教育の推進	社会の高度情報化の進展に主体的に対応できる能力や態度を育むため、情報活用能力の育成を図る。
8 地域貢献活動の推進	奉仕の精神を涵養し、豊かな人間性や社会性を高め、達成感や自己肯定感を醸成するため、地域社会での奉仕活動や体験活動の推進を図る。
9 働き方改革の推進	教職員が健康でやり甲斐が持てるよう業務改善を図るため、校務支援システムの導入など職場環境作りに努める。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
教務部	1 授業時間の確保と規律ある授業実施の徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の精選を図り、授業時間の確保をする。 ・チャイムで授業開始、終了を徹底する。 ・節度ある態度で授業に参加できるようにする。 	A	<p>令和4年度から2学期制が導入される。各定期考査の間隔が広がり、生徒がじっくりと学習に取り組める良い点がある一方で、学習の目的があやふやであると、漫然と時間が経過してしまう恐れがある。今年度の観点別評価の実践状況を踏まえ、あらためて教科ごとに適正な評価規準や評価方法について検討をお願いします。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の終息が見通しにくい状況にあるため、学級閉鎖等の場合に通常の時間割に基づくオンライン授業の実施を想定する。</p>
	2 PDCAサイクルを確立し、自己管理能力の育成・向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・NOLTY スコラ手帳の活用を通して、より良い生活習慣の確立を図る。 	A	
	3 適正な観点別評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに評価規準を作成し、評価の実践を踏まえ、必要に応じて評価規準や評価方法について検討・見直しを行う。 	B	
	4 授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング、ICT活用を意識した授業研修を心がける。 	B	
	5 キャリア教育の柱であるエリア設定科目の実践と次年度開設科目の準備を進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・作成したシラバスの実践と必要な修正、次年度に向けたシラバスの作成を行う。 	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
図書情報部	1 図書室利用や図書の貸し出しの促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書室内の装飾を工夫し、明るく、親しみやすい図書室環境作りをする。 ・ 生徒にわかりやすい配架や貸し出し・返却の仕方を検討し、より円滑な図書利用を図る。 	B	A	<p>図書の利用については、本年度親しみやすい図書環境作りに励んできたが、近年は読書離れの傾向が強まり、利用数を伸ばすことはできなかった。今後は読書週間を設けるなど、キャンペーン展開も必要かと思われる。</p> <p>情報分野については、HPのリニューアル、校務支援ソフトの導入など、新たな取り組みがスタートした。いずれも活用度合いは良好で、今後は更に活用方法を模索していければと思う。</p> <p>生徒一人一台端末の整備については、校内のネットワークの整備の関係で、次年度の導入は見送りとなった。しかし、本年度は校内ネットワークについて着実に整備を進め、生徒一人一台の端末の導入の見通しを立てることができた。再来年度からの導入に向けて計画を進めていければと思う。</p>
	2 図書の紹介を通して読書活動の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ おすすめ本のコーナーの設置の仕方や掲示の方法を工夫し、生徒の読書に対する関心を高める。 	B		
	3 本校教育への理解が高まるように、教育活動に関する情報を外部に対して積極的に発信し、共有を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校HP、Twitterの定期的な更新及びまちこみメールの配信など、最新情報を掲載・配信を行う。 	A		
	4 校務支援システムの円滑な運用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度から運用する校務支援ソフトについて、教員間での研修を重ねあいながらの円滑な運用と活用を行う。 	A		
	5 校内ネットワークの整備と生徒一人一台の端末の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度からの運用に向け、計画を立て進めていく。 	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒指導部	1 一人一人についての生徒理解の深化を図る	●平素の学校生活の中で一人ひとりの言葉に耳を傾け、その気持ちを敏感に感じ取ろうという姿勢を持って生徒に接する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が生き生きとした、明るい態度で学校生活を送れるよう声かけを意識して取り組んできた。しかし現状は、挨拶をとってみてもみんながするようになったかと言われればさほど変わっていないように思われる。この状況を打破し、生徒が明るく学校生活を送れるよう挨拶運動の強化を行う予定である。 ・令和3年度は携帯電話・スマートフォン関連の違反が激減しており、預かり指導が軌道に乗ってきているように思われる。しかし未だにダメーを提出する生徒もいるようなので引き続き取り組んでいきたい。 ・SNS被害防止及び薬物乱用防止の徹底については例年通り講話を中心に指導してきたが、特にSNS上でのトラブルがあった。幸いにも重篤な問題にはならなかったが、来年度についても各HR担任を介し
	2 基本的生活習慣の習得	<ul style="list-style-type: none"> ●各学期始め及び随時服装髪型検査を行う。 ●担当職員による定期的な生活指導により自己指導能力の育成を図る。 	B		
	3 情報安全教育をすることでの危機管理能力の養成	●携帯電話・スマートフォン等の適切な利用方法とSNS利用時の危険性についての指導を行う。また、利用マナーの啓発を行い、関連する問題行動の撲滅を図る。	A		
	4 薬物乱用防止の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ●高校生の大麻関連逮捕者の増加を鑑み、薬物乱用防止講話の実施 ●保健等、授業での周知徹底を図る。(薬物乱用の危険性についての認識を高める) 	A		
	5 いじめ防止教育の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ●学校の立場としては、いじめは絶対に許さないという強い姿勢で臨む。 ●毎学期、学校生活に関する調査 	B		

		<p>(いじめ状況確認調査)というアンケートを行う。</p> <p>●学年集会及びHRにおいて「いじめ」の定義について再確認を行い、他者に対する思いやりの醸成を図る。</p>			<p>て根気強く資料等を使用し生徒に働きかけていきたい。</p> <p>・いじめ防止教育については学校としていじめ問題撲滅に取り組んでいくことは命題であるので、生徒・保護者とコミュニケーションを密にし小さな問題を軽視せず拾い上げて取り組んでいきたい。</p>
	6 交通安全教育の徹底	<p>●地域の警察署交通課担当による交通安全講話を実施し、交通ルール遵守についての重要性を理解させる。</p> <p>●登下校指導を行い、通学時の安全を確保する。</p>	B	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	生徒一人ひとりの夢を育み、その夢を実現させる。	<p><対生徒・保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が自ら進路探究活動ができる『進路探究室』を設置する。PC やプリンタを設置し、Web を活用した学校や求人調べを行えるようにする。また、Web でのエントリーや説明会（OC）にも対応できるようにしていく。 ベネッセやリクルートなどの教育ツールを活用し、 <ul style="list-style-type: none"> ①生徒の成績や学習時間を管理・把握し、成績の向上を図る。 ②家庭学習・自主習慣を確立していく。 ③保護者との連携を図る。 進路業者に進路ガイダンスや職業理解ガイダンスなどを適宜実施し、進路選択の幅を広げる。 	A		進路探究室の利用者が一部の生徒に限られてしまった。第3学年はもちろん、他学年の生徒にも活用しやすいような工夫が必要である。ネットが使える PC を増やしたり、オンライン面談ができるようなネットワーク環境を整備する必要がある。
			C	B	今年度第1学年から Benesse 提供のクラッシーを導入したいと考えていたが叶わなかった。来年度は導入予定となっているので、教員がシステムを理解できるような講習会などを予定し、生徒への学習効果を上げていきたい。
			A		進路業者の協力のもと、進路ガイダンスを実施することはできたが、次年度は成人年齢引き下げも考慮し、金融講話も実施したい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・併設の幼稚園・保育園実習だけでなく、外部機関主催の看護体験やインターンシップなどへの参加へを促し、進路への意識付けやミスマッチを防ぐ。 ・外部模試を活用し、得意不得意科目等の自己分析や課題設定を行い、学力向上を図るとともに進路実現へ導く。 ・実用英語技能検定、日本漢字能力検定、実用数学技能検定受験などの資格・検定試験受験の啓発に努める。 <p><対教員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目まぐるしく変化する入試に対応するため、外部研修や学校説明会に参加し、進路研修を重ねる。 	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>1年次のインターンシップは中止となってしまったが、近隣の事業所との連携を深めることができた。幼保実習に関しては、附属幼稚園・保育園にご協力いただき、実施することができた。次年度は、2年生就職希望者対象のインターンシップを実施したい。</p> <p>模擬試験受験者数は少なかったが、予定の模試はすべて実施した。一般入試で勝負できるよう指導し、模擬試験受験者数を増やしたい。</p> <p>検定試験に関しては、試験の案内を進路室前ボードに貼付けたことで、医療事務検定などの検定に興味を持つ生徒が増えた。</p> <p>コロナの影響もあり、中止やオンラインでの実施が多かったが、10校程度の上級学校に訪問した。来年度は指定校大学に教員対象の説明会の実施を計画したい。</p>
--	--	---	-------------------------------------	---

		<ul style="list-style-type: none"> ・指定校推薦枠を増やすため、本校生のレベルにあった新規上級学校に対し、積極的に指定校推薦枠の依頼文を発送していく。 ・就職先を確保するため、お世話になっている企業はもちろん、近隣企業の新規開拓のための挨拶まわりも行っていく。 ・現役生徒への進路選択の一助となるよう、進学・就職後の卒業生の追跡調査(訪問)に力を注ぐ。 	<p>C</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>指定校依頼の問い合わせや訪問の結果、2校指定校を増やすことができたが、次年度はより指定校枠を増やせるよう策を練りたい。</p> <p>インターンシップの依頼をきっかけに、近隣の事業所との繋がりが大分増えた。次年度は外回りに力を注ぎ、就職先になりえる事業所数をより増やしていきたい。</p> <p>コロナの影響もあり、就職者の事業所訪問ができなかったが、進学者は広報の方から伺うことができた。次年度は追跡調査の結果を情報共有できるようにしていきたい。</p>
--	--	--	----------------------------	---

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者と教師の連携強化を図り、本校教育活動の理解及び発展を目指す。	P T A活動を通じ、保護者との情報交換を積極的に行い、各活動に対する共通理解を図る。	B	B	<p>今後もP T Aとの連携を密にし、しっかりと情報交換をしていくことは必要である。</p> <p>次年度はP T A関係行事の精査をP T A会員とともにを行い、必要行事、不要行事を見極め、改革を行うことや学級長の選出方法の検討が必要ではないかと思われる。</p>
		P T A活動における改善点や問題点に対して保護者との意見交換を積極的に行い、対応を図る。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健厚生部	1 校舎及び敷地内において積極的に清掃活動を行ない、生活環境の美化を図る。また、委員会活動の活性化を図り清掃活動などに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・教室及び分担区の清掃をきちんと行い、生活環境美化に取り組み、ごみの落ちていない清浄な環境をつくる。 ・美化委員や校内環境美化のボランティアなどの協力を得て、学校生活に関わる環境の美化を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・階段は生徒の下校と重なり、効率的な清掃ができない状況があるため、ハンディクリーナーなどの購入・活用を検討したい。1・2年生フロアトイレのゴミ箱への飲食物ゴミ投棄により、清掃担当者の方からの相談が多く見られ、年度末には1年生のゴミ箱を撤去し様子を見た。全般的に、トイレ（公共の場）でのマナーを周知・徹底が必要である。 ・コロナ感染により、学校行事中止となった事もあり、委員会活動は振るわず、行事にとられない活動の実践が必要。 ・避難訓練は、1度実施出来たが、実際の緊急時に即応した実践的な退避行動が出来るよう検討を行う。 ・奨学金関係は、例年通り円滑に行えたので次年度も同様に行いたい。
	2 防火及び地震などの災害対策についての徹底を期し、生徒並びに教職員の防災意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災避難訓練を通して、自身の安全確保の仕方や、避難経路を確認することで、万が一の災害時においても可能な限り被害を被らないよう日常的な意識の高揚を図る。 	B	
	3 奨学金（奨学生制度）について、適切な利用ができるように生徒及び保護者に周知徹底することで、生徒の進学機会の創出の一助とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡を漏れなく生徒・保護者に伝え、提出書類の限等を厳守させるなど、必要な手続きを遅滞なく行なえるよう指導する。 ・適宜説明会を行い、本人・保護者に制度の理解を深めさせ、適切な利用ができるよう促す。 	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
特別活動部	1. 様々な学校活動を通して、学内における生徒同士の関わりをを深め、コミュニケーション能力の向上を目指す。	・学校行事の組織編成を工夫し、生徒同士がかかわりを持つことのできる運営を実施する。	A	<p>本年度も新型コロナウイルスの影響もあり、規模縮小した形での行事が多かった。しかし、昨年度は7行事しか実施できなかったが、今年は13行事を行うことができた。その中に「生徒総会」、「クリスマス飾り」といった新しい行事もあり、引き続き行っていきたい。</p> <p>本年度も、全校生徒が同じ場所で一同に行える行事が行えなかった中で、好文祭やクラスマッチを行えたことは、クラスの交流や協調（協力）等にとっても意味のある行事になった。</p> <p>本年度の部活動加入率は45%～50%であった。部活動紹介や見学期間等を通して部活動に加入することのメリットを伝えていきたい。（目標として加入率70%）</p> <p>次年度も、規模縮小しない形で行事を行えるように準備する必要があるが、実施に関しては、その時の状況を踏まえて、慎重に判断して実施していきたいと考えている。</p>
	2. 委員会活動の活性化し、生徒主体の活動を通して、自主的・実践的な態度の育成を目指す。	・各委員会活動が活動予定及び運営要領を策定し、生徒が中心となり主体的に取り組めるように指導する。	B	
	3. 部活動の活性化により、明るく活動的な学校生活の実現を目指す。	・部活動を通して、心身を鍛え、明るく健康的な学校生活を送り、同じ目標を持つ活動の中で、クラス活動とは異なる、より豊かな人間関係を育成する。	B	
	4. クラス活動を通じた協調性・自主性・社会性の育成、集団の中での責任感や連帯感の涵養を図る。	・クラスマッチや好文祭などのクラス活動において、互いを尊重しながら、より良い企画の実現を目指して、意見交換等を積極的に行うなどの機会を作る。	B	
	5. 地域貢献活動を通して、奉仕の精神の涵養、社会性の向上、達成感の醸成をを目指す。	・清掃・美化活動の実践と活動の活発化。また、地域行事やボランティア活動への積極的な参加による体験活動の推進。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教育相談部	教育相談の円滑な運用を図り、生徒の自己理解を促し、自ら前進する力を付けるための支援を行う。	学校生活において、友人関係や学習面など青年期の発達課題に直面し、大きな不安や緊張に悩む生徒に対し、彼らを取り巻く担任、学年、保護者、カウンセラーとの連絡・調整を図り、不安や悩みを解決するための援助を行う。	A	B	<p>本年度の教育相談室利用者は3月10日現在で32名（延べ回数246回）である。また、カウンセリング実施者は34名（延べ回数101回）である。相談室利用、カウンセリング実施共に増加傾向にあり、特にカウンセリングは毎週ほぼ空のない状況が続いている。以上の状況により教育相談関係の事案情報の整理・共有が少し遅延することもあった。</p> <p>相談室での自学学習のサポートについては、当該生徒の担任・学年により、概ね対応できた。研修会ではストレス軽減のためのストレッチ実技演習を行ったが、ストレスケアのための対話実技の研修の必要と考える。</p>
		学年主任、及び各教科担当の教師と学習内容の確認作業を行い、教育相談室利用生徒の学習の滞りを防ぐ。また、自学的学習のサポートにより学習意欲を促す。	B		
		職員研修を企画・実施することで、教員のカウンセリングマインドの能力向上を行う。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第1学年	1 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の進路に関する活動について、下記の各事項を活用及び連携しながら確実に前進させる。 ①ノルティ手帳 ②キャリアデザイン ③コース・エリア選択 ④進路ガイダンス ⑤二者面談(三者面談) ⑥インターンシップ ・生徒の進路に関する情報を学年で共有(PC)し、さらに積み重ねる。(=次年度へ継続ある引継ぎ) 	B	B	<p>アドバンス2年目として、昨年度の反省を活かしたことにより円滑に展開できた場面が多くなった。しかし、昨年と同様な課題が残った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノルティ手帳の有効活用 全ての生徒に対して有効活用できるように方法を工夫したい。 ・エリア選択 早い段階から進路意識の向上と進路先を考える働きかけを積み重ね、適切なエリア選択をできるようにしたい。 ・インターンシップ (本年度も中止) 本年度はなんとか実施直前まで準備をすることができた訳だが、事業所選定など準備に時間を必要とするため早い段階から進路指導部と連携して準備を行いたい。 <p>コロナの終息が見えない厳しい状況の中、生徒たちは日常の高校生活や学校行事を通して友人関係を構築し、充実した生活を送ることができた。ス</p>
	2 確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックはもちろん、基礎力診断テストにおいても定期的に「振り返り」を行い、学習方法等を確認及び改善させ、学力の向上を図る。(=PDCA サイクルの定着化) 	B		
	3 人間関係作りの推進 学年目標 「ONE TEAM」 身だしなみ(服装/言葉遣い)の徹	<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会やクラス HR 等を通して、友人関係の在り方や言葉遣い、協働の大切などを指導し、思いやりのある友人関係を構築できるようにす 	B		

	底	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フレッシュャーズキャンプ(10月実施)では寝食を共にすることによりより一層学年全員の絆を深め、より一層充実した高校生活を送れるようにする。 		<p>キルアップ研修(名称変更)は生徒に好評であり、大きな成果を挙げることができた。しかし、一部の生徒には友人関係が構築できず、教員のサポート、相談室やSCを活用しながら問題解決を図る場面が数多くあった。今後も生徒たちには友人関係を構築する上で「思いやり」や「言葉遣い」などを含めた働きかけを継続していきたい。</p>
	4 特別活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動や生徒会、部活動の重要性を認識させ、積極的に取り組ませることにより生徒たちが中心となった学校生活を構築できるようにする。 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年	1 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアの授業と学年が連携して目標を達成できるよう計画的に指導に当たる。夏休みにオープンキャンパスに参加し、進路目標を早めに設定させる。 ・自己管理能力を育成するためにノルティール手帳を引き続き有効活用する。 ・インターンシップ（希望者）にて個人の目標を設定できるように指導する。 	A	A	<p>ノルティール手帳や個別面談を通じての生徒とのやり取りで、担任・副担任が連携を取り、よく指導していただいたので、多くの生徒が進路について方向性を決めることができた。キャリアデザインの授業でも、グループワークにおいて、積極的に取り組むことができたので、将来に向けて自分の進路をしっかりと考える生徒が増えてきた。来年度も継続し、学年の生徒全員がしっかりと進路を決めて卒業できるようにしていきたい。</p>
	2 確かな学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で生徒が「できた」「わかった」と感じられるように授業を工夫する。 ・引き続きベーシックの授業において基礎学力の向上を目指す。出来る喜びを一人でも多く味わえるようにする。 ・進路マップで成果が出るよう、授業と連携して指導に当たる。 ・ホームルームを通じ、身だしなみを整え、落ち着いて授業に向かう環 	A		<p>ベーシックの授業は、昨年度と比べ、内容のレベルが上がり、個人個人の差が出てきた。進度が遅い生徒に対して、学年のベーシック担当教員と担任、授業担当が連携し、粘り強く指導をしていただいたので、何とか乗り切ることができた。進路マップの結果でも成果が出ているのがわかる。</p> <p>中だるみの時期で、服装・髪型などが乱れることもあったが、担任・副担任がその都度しっかりと指導をしてい</p>

		境を作る。 ・ベル着を徹底する。			た。来年度も引き続き行っていく。
	3 国際教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの教科で国際教育についてできることを検討し、授業で扱うよう依頼する。 ・国際教育推進委員会と連携し、台湾修学旅行に向け、事前交流（オンライン学校交流）をし、現地学校交流に向け、しっかり準備をする。 ・SDG s 教育の導入 ・JICA 主催ワールドキャラバンの実施。 	A		<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、修学旅行の行き先が、台湾から沖縄になった。順調に計画していたところ、1月からオミクロン株が爆発的に感染し、沖縄にも行くことができず、非常に残念であった。次年度に規模縮小し行うが、それは何としてでも成功させたい。</p> <p>カレッジエリアでのワールドキャラバンにおいては先生方の事前準備、生徒の積極的な取り組みで非常にいい授業が展開されたと思う。担当の先生方に感謝したい。</p>
	4 人間関係作りの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事などで協働することを通じ、望ましい人間関係を育てる。 ・相手を考えて正しい言葉遣いができるように指導する。 ・生徒がいじめから身を守れるよう 	A		<p>学年の先生方全員が、生徒と真剣に向き合い、同じ目線で生徒に接して指導をしてくださったので、全体的に落ち着いていたと思う。学年全体が学年目標である、ONE TEAM となり、1年間</p>

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第3学年	<p>1 キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる ・自分の進路を実現させる力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験に必要な力を養うためにキャリアの授業、放課後ゼミ、模試、講座などを行う。 ・キャリアの授業、進路行事、学年行事で連携した指導を行う。 ・行事や行動の記録や成果を手帳を記録させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に必要な学力を養成するためのゼミなどが、あまり実施できなかった。特に大学進学者で学力が心配な生徒が多く見られた。大学進学者の学力を養成するための方策について考える必要がある。 ・ポートフォリオを実施できなかったが、それによって生徒が進路実現に不利になったとは感じられなかった。 ・生徒の進路希望、会社見学、試験日、面接練習の情報を Google カレンダーなどクラウドサービスを利用して共有し、生徒にもメールで連絡するようにしたことは、効果的に機能した。情報機器やサービスを情報の共有と発信にうまく利用すると業務が軽減されると思う。 ・学習環境を整え、身だしなみを整えて学習する姿勢を育成するために月に1度「身だしなみ週間」を実施して授業中の態度や身だしなみを確認した。自己評価と先生の評価をして生徒に改善を促す指導をしてきた。3年間
	<p>2 確かな学力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びに向かう姿勢を育てる ・進路を実現できる学力を育成する ・家庭学習の習慣をつける ・学ぶ環境をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で生徒が「できた」「わかった」と感じられるように生徒の実態にあった評価基準を作成して授業を行う。 ・授業の準備、身だしなみ、授業態度などを評価することを通して、学びに向かう態度を育てる。 ・授業態度を自己評価させることを通して、修正点を認識させて自ら改善するよう指導する。 ・きれいで整理整頓された教室環境をつくり、生徒が落ち着いて学ぶ環境を整える。 	B		

	<p>3 人間関係づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい言葉遣いを身につける ・思いやりの気持ちを育てる ・いじめの防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で元気にあいさつができるように指導する。 ・相手を考えて正しい言葉遣いができるよう指導する。 ・不登校や悩みを抱える生徒に対して、保護者や教育相談と連携しながら担任・学年でよりきめ細やかな指導を心がける。 	B	<p>継続したことで、規範意識、言葉遣いが身につき生活も落ち着いてきた。しかし、授業環境や学習態度が改善されず、担当の先生にも迷惑をかける生徒も見られ、担当の先生に迷惑をかけてしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される生徒の行動や問題などを考えて、事前に指導を入れたり、情報を発信することを心がけた。 <p>また、生徒の現状を把握し、課題を解決するために、速やかに手を入れることを心がけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年だけの試みでは限界を感じる。教務、進路、生徒指導部が現場の課題を把握して、適時、学年と協力して手を入れるとより効果的と考える。
	<p>5 基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール、マナーを守る ・気持ちよいあいさつができる ・正しい身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒が安心して生活できるよう、規範意識、マナーについて意識させる。 ・身だしなみを、自己評価させることを通して、修正点を認識させて自ら改善するよう指導する。 	C	